

第2号様式（第3関係）

平成29年度春日井市民病院事業評価委員会議事録

1 開催日時 平成29年10月12日（木）午後2時～午後3時

2 開催場所 春日井市民病院3階 講堂

3 出席者

【会長】	税理士		篠田 篤志
【副会長】	春日井市老人クラブ連合会	顧問	大村 義一
【委員】	春日井市子ども会育成連絡協議会	名誉会長	中村 重和
	春日井市医師会	理事	小山 浩
	春日井市婦人会協議会	会長	熊谷 三映子
	春日井市健康福祉部	部長	山口 剛典
【事務局】	春日井市民病院	院長	渡邊 有三
		看護局副局長	村瀬 多美子
		事務局長	坂井 勝己
		管理課長	橋本 健
		医事課長	渡辺 寛
		管理課長補佐	宮崎 聡子
		管理課長補佐	加藤 純也
		医事課長補佐	小川 良治
		管理課主査	倉知 康雄
		医事課主査	越 統靖

4 傍聴者 1名

5 議題

- (1) 平成28年度第2次春日井市民病院中期経営計画の事業報告について
- (2) その他

6 会議資料

- 資料1 春日井市民病院事業評価委員会名簿
- 資料2 春日井市民病院事業評価委員会規則
- 資料3 平成28年度第2次春日井市民病院中期経営計画事業報告書

7 議事内容

- (1) 委嘱状及び辞令の交付について

院長から出席委員に対し、委嘱状及び辞令の交付を行った。

- (2) 会長、副会長の選出について

委員の互選により、会長及び副会長の選出を行い、会長に篠田篤志委員、副会長に大村義一委員が選出された。

- (3) 会議の公開等の確認について

会議は公開とし、議事録は「要点筆記」で作成し、会長及び副会長が確認・署名することを確認した。

- (4) 平成28年度第2次春日井市民病院中期経営計画事業報告書について

【橋本課長】(資料3に基づき説明)

【大村委員】 地域医療に貢献したということで自治体立優良病院表彰を受賞したことについては、おめでとうございます。受賞されて特別に嬉しかった点等ありましたら教えていただきたい。

【渡邊院長】 なんでも賞状をいただけるのは大変嬉しいことです。

私が院長に就任した平成21年度は12億の赤字でしたが、職員が本当に努力してくれて、たった1年で、黒字基調が見え、それから7年連続で経常収支が黒字となっております。

最初は、私がトップダウンでこれをやるようにと依頼はしましたが、最近ではボトムアップで、若い職員が、あれをやりたい、これをやりたいと言ってきてくれるので、底上げがよくできている病院になったと感激しております。それが1番の嬉しいことでございます。

【大村委員】 次に、春日井市民病院は救急の対応と腎臓病対策が素晴らしいとされています。その理由を聞かせてください。

【渡邊院長】 当院は昔から救急の受け入れについては、断らない救急を掲げて救急車の受け入れを行っており、現在の年間1万台を超える救急件数につながっていると思っております。受け入れれば良いというわけではございませんが、やはり、困っている方に手を差し延べるというのが、本来の医療の役目だと思っておりますので、この気持ちが、職員にも浸透したのだと思います。当院の横に総合保健医療センターが建設され、そこに医師会の先生方がやっておられる休日・平日夜間急病診療所が併設されました。医師会と当院の救急がドッキングし、患者さんにどちらを受診するかを決めていただく形で始めました。これが功を奏し、インフルエンザの流行っている時期、特に年末年始などには、当院の救急よりも医師会の先生方が診てくださった患者さんのほうが多くなることもありました。歩いて来られる軽症者を医師会の先生方が診てくださることで、我々は、救急車で搬送される重傷者の診療に特化できるようになっています。地域医療を支えるという意味で、医師会と当院との協働が上手くいっていると思います。

腎臓病対策は、私と、成瀬副院長と2人で、この病院に赴任してまいりましたが、少しずつ研修医の中から優秀な医師を集めてきました。研修後に大学へ戻り博士号を取得して戻ってきた医師など、私を含め、博士号を取得した医師が4人在職しており、その下に、まだ4人ほど若い医師がいます。この人員は愛知県の中でもトップクラスでございます。私が、当院に赴任し、たくさんの人を育てたことが、今、実りを迎えています。

【大村委員】 病院新聞「さくら」の充実は素晴らしいと思います。「らいふ」とともに、ますますの充実を図って欲しいです。

【渡邊院長】 病院新聞「さくら」や「らいふ」は、まさしくボトムアップで作成したものです。若い職員から、これを作るからと原稿依頼を受けてばかりで、パソコンに向かって、原稿を考えなければいけない次第です。皆さんに読んでいただけたら本当にありがたいと思います。

【大村委員】 開業医との連携もよく、指導等していただき地域貢献していただき大変感謝しております。

【渡邊院長】 開業医さんとも連携よく、いろいろ指導いただいておりますことを喜んでおります。私が赴任したころから医療連携が始まっており、この病院ができたときは、西病棟7階に開放型病床という医師会の先生方と一緒に患者さんを診る病床を開きました。その後、一緒に診ることをしなくても病院に任せておけばよいということになりました。また、今年度電子カルテを更新したことに伴い、電子カルテの情報を共有できるようになりました。レントゲン、CT、MRIなど当院で撮影したデータや検査の結果などを、開業医の先生が自分のパソコンで見ることができるようになりました。

大村委員からお褒めの言葉をいただきましたが、その言葉を大事に受け止め、さらに地域住民が良い医療を受けることができるよう、医師会の先生方と共同でやっていきたいと思っております。総合保健医療センターも隣にございますので、健診で異状があった方は、なるべく早く対応できるよう病院として努力をしていきたいと思っております。

【大村委員】 資料13ページの職員からの業務改善提案とは、どんな提案だったのか教えてください。

【渡邊院長】 昨今は全国のデータが集計できる環境が整っており、そのデータを利用し当院がどういう立ち位置にあるのかということ进行调查することができます。当院の看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、などの医療職員の中から、医療知識やパソコン操作などに長けている者で構成する医療情報センターでこうした分析を行っています。例えば、どういった疾患の患者さんが当院に来て、どの疾患の患者さんが少ないのか。そういうものを調べていく中で出てきた提案を実施することで、経営意識の向上につなげております。

職員からの業務改善提案については、毎年夏に各所属長から、院長、副院長、看護局長、事務局長、薬剤部長、技術部長がヒアリングを行い、業務提案や安全安心で質の高い医療の提供のため

の機器の購入の希望などを聞き取り、当院の予算と勘案し、ひとつずつ希望をかなえております。特に、経営が順調である今、予算との兼ね合いはあるものの、新しい機器を購入できる状況でもありますので、できる限り職員の要望にも応え、モチベーションをあげていきたいと思っております。

未収金対策は医事課が担当しております。以前は、億を超える未収金がありましたが、最近では、未払いとなる人も減ってきております。未収金に対しては督促も行っており、最後は、内容証明で裁判で訴えると通知をすることもあり、未収金は減少しております。しかし、過年度の未収金は、まだ残っている状況であります。

費用削減は、管理課が努力しております。全国の自治体病院で、どういう薬や診療材料をいくらぐらいで購入しているかというデータがあります。ベンチマークとありますが、これに基づき、より安い値段で購入できるよう努力しております。そうしたことが収益改善に寄与しているのではないかと感謝しております。

【大村委員】 病院には直接関係ないかもしれませんが、平成30年度から春日井市が訪問相談に療法士を同行する新しい制度を始めるとのことですが、この制度と療法士について教えてください。

【橋本課長】 療法士は、作業療法士、理学療法士などの技師のことで、リハビリに長けています。この事業は市民病院とは直接関係がありませんが、市の地域福祉課が、社会福祉協議会などに委託しており、実質的には地域包括支援センターが運営をしております。これまでの訪問相談は地域包括支援センターの職員が出向いて相談を受けておりますが、高齢者の支援計画を作成する際には、リハビリに関するアドバイスが有効だということで、相談にリハビリの専門家が同行するというものになります。主に東海記念病院の療法士が同行すると聞いております。

【大村委員】 病院にも療法士がいるわけですね。

【橋本課長】 理学療法士、作業療法士などがいます。

【渡邊院長】 言語訓練や飲み込みの難しい方への嚥下訓練などをする言語聴覚士、日常作業ができない方への訓練をする作業療法士、力がな

い方などの運動機能の訓練をする理学療法士がおります。

【大村委員】 「さくら」を広報に挟み込むことはできないのですか。内容がよいので市民に広く見てもらいたいです。

【事務局長】 年に数回、広報の中に、1～2ページの記事を書かせていただいております。

【大村委員】 それだとお知らせだけになってしまうのでは。

【渡辺課長】 以前、1度だけ「さくら」の挟み込みをしたことがあります。広報春日井への記事掲載は、紙面の都合等があり、年に2～3回程度掲載しております。例えば、今、お手元にある記事のように、血管外科と循環器内科の医師による「知ってもらいたい忍び寄る病気」という内容を載せました。この記事の掲載後、近くのクリニックにこの記事を見せて、紹介して欲しいという患者さんが結構いました。それから、12月には救急車の適正利用と救命救急センターの取り組みについての啓発をしております。先ほど、渡辺院長からもお話ししましたが、救急車の適正利用については、春日井市にとりまして重要な課題です。私どもにとりましても、救命救急医療に特化するということは大きな課題でもあります。来院をお断りするのではなく、それぞれの役割分担を進めましょうということです。それは、隣接する休日・平日夜間急病診療所を運営しておられます医師会、歯科医師会、薬剤師会の先生方のご協力のもとに成り立つものです。医療機関の役割分担について、市民の皆様に広報をしていきたいと考えております。

【中村委員】 先ほどの改善提案についてですが、改善提案の優秀なものには表彰されるとか、何かありますか。

【渡辺院長】 優秀な提案をした職員には、院長賞を渡しています。このほか、市民の方々から感謝の言葉を頂いた職員、あるいは、この病院の運営に対して功績のあった職員を毎月確認して院長賞を出すという制度がございます。

【小山委員】 未収金対策で、未収金額が減ってきてはおりますが、少額訴訟は行っていますか。

【渡辺課長】 未収金対策は、訴訟よりも、簡易裁判所に申し立て、支払督促を行っております。

- 【小山委員】 未払金額が60万円を超えた方に対して行っておられますか。
- 【渡辺課長】 60万円以上ということではなく、30～40万円でも行います。合わせて、連帯保証人への督促も同じように行っております。
- 【小山委員】 外国人の方が多いのでしょうか。
- 【渡辺課長】 外国人とは限らないですが、傾向としては外国人の方の未収金は増えてきております。住所確認が保険証でしかできないため、保険証の住所が違っていると居所が不明になってしまうということが深刻な問題です。それから、外国人の場合、外国人登録をしていなかったり、違う人の保険証を使うような例もあります。
- 【小山委員】 状況を医局会などで説明をして、医師にも協力を求めるといったことは行っておられますか。私も病院勤務時代、病院がどれだけ未収金があるのか知らなくて、この事実を知っておくことで、必要最小限の治療にする、電子カルテに暗号をつけるなど対策が取れるのではないかと思うのです。
- 【渡辺院長】 電子カルテは患者さんにも見えますので、案外、すぐに気づかれ、そこでまた、トラブルが発生する恐れがあります。医事課職員に努力してもらっているのが現状です。患者が暴力行為を働くなどの場合には、電子カルテに注意書きがあることもあります。
- 【渡辺課長】 電子カルテには記載が難しいため、会計のシステムで未収金があるということを表示しており、外来では、各診療科の受付で分かるようになっております。病棟では、看護局の協力を得て、その患者に未収があることを把握できるようになっております。
- 【小山委員】 最近、債権回収業者がありますが、こういったものを利用する予定はありますか。
- 【渡辺課長】 近隣の病院でもそういった動きはあり、調べてはおりますが成功報酬がかなり高いので、今のところ予定はありません。
- 【熊谷委員】 幸い、私は長いこと病院にかかったことはありませんが、以前は、やはり待ち時間が長く、病気になって病院に来たのに、何時間も待たされて、かえって病気が悪化するといわれていたこともありました。待ち時間の対策、対処法を教えてください。
- 【渡辺院長】 一番はかかりつけ医をもってもらうことです。病院の外来と上手にわけてもらい、軽症な方、安定している方はできる限り地域

で診ていただく形になっております。最近では、医師会の先生方との連携強化が実を結び、紹介患者数が着実に増えてきております。そういう意味では、また、待ち時間が延びてきているわけですが、以前に比べ、紹介枠は別にしておりますし、予約は取りやすくなっております。それから、患者さんに待ち時間の間に病気に関する情報などを見ていただく、デジタルサイネージという画面を置いています。また、職員からのボトムアップの提案ですが、漢字クイズの用紙を作って置いたりして気を紛らわしていただく待ち時間対策もしております。どうしても診察の順番は決まっておりますので、患者さんが増えると待ち時間は出ます。ただ、こういった対策もあり待ち時間については、以前より良くなっているのかなと思います。

【熊谷委員】 他の病院では、番号であなたは何番目ですと分かるようになっております。そういうものが目で見えると、イライラも解消されるのではないかと思います。

【渡邊院長】 外待合の掲示板に番号表示がされると中待合に入っていることになっておりますので、ある程度の順番はお分かりになるのではないかと思います。

【山口委員】 改めて7年連続黒字が続いたこと、未収金対策の成果が上がり、不納欠損処分額が増えていかない中で、確実に未収金額が落ちているという点につきまして、スタッフの方々の努力の賜物なのではないかと思います。

後発医薬品の割合が急激に増えております。市民の方々が後発品に理解が出てきたのかなと思うのですが、後発医薬品の使用に関して患者さんからの意見はないものでしょうか。

【渡邊院長】 国の施策でジェネリックが推奨されておりますが、患者さんの中には、どうしても嫌だという方はおみえになります。その場合、外来については希望が通るようになっております。ただ、入院時の医薬品については、ジェネリックをある程度使わないと収入が激減するような措置がされておりますので、入院の医薬品はジェネリックに替えざるを得ない状況ですが、退院後、外来では先発品を希望していただけます。

【篠田会長】 私から3点ご質問させていただきます。昨今、政府では消費税増税の問題があります。消費税が2%上がりますと収益がかなり変わってくると思いますので、税率8%のうちに計画的に、医療機器の購入等進めていただければと思います。

【渡邊院長】 当院では、5%から8%に増税されたときに、年間3億円ぐらいの損税が発生しております。今後、さらに2%増税となると、現在の経営状況だと3億円ぐらい収益が下がると思います。薬品等を購入するときには消費税を賦課されて購入しますが、患者さんには消費税を転嫁できず、その分は自分たちで負担する仕組みとなっております。篠田会長の言われるように、機器等の先買いができれば良いのですが、予算で動いておりますので諦めております。

【篠田会長】 黒字になったおかげか、一般会計の補助金が平成29年度から削減されており、収支計画では8億円から4億円になっておりますが、これは問題では。

【宮崎補佐】 これまで医業外収益に入っておりました一般会計補助金のうち医業にかかる負担金につきまして、医業収益に科目変更しておりますので、補助金額の合計はほぼ変動はありません。

【篠田会長】 平成28年度と平成29年度の計画を比較しますと、医業収益が約13億円増えていますが、一般会計補助金が4億円減ってしまうと医業収益をかなり上げなくちゃいけないと思っていたのですが、理解しました。しかし、収益は上げていかななくてはならないと思っておりますが、その辺の見込みはどうでしょうか。

【渡邊院長】 平成21年度から当院の収益が黒字となったのは、収入が増えたにも関わらず、支出があまり増えていないことが一因としてあります。病院職員が努力して病院の機能が上がったため、病院機能評価係数がだんだんと増えて、収益が増加しています。収益増で黒字が増えているという形です。

【篠田会長】 今日テレビを見ていたら、教職員の不祥事があったようで、プライベートで万引きをしたというニュースがでておりました。どうしてもこういう職業に就いている方は、プライベートでも何かありますと、すぐにニュースになってしまいます。院長が頭を下

げなくてもいいように、皆さん方の綱紀肅正に努めていただきたいと思います。

【渡邊院長】 ありがとうございます。新聞を騒がせたこともあり、大変、忸怩たる思いがあります。採用時や年度始めに、公務員である自覚を持って仕事に励んでくれと、必ず院長訓示を行っておりますが、更なる綱紀肅正を図って職員へ注意して参ります。

【橋本課長】 本日、所用によりご欠席の薬剤師会会長の塚本委員から、ご意見を頂戴しておりますのでご報告させていただきます。資料8ページの地域医療の連携の推進におきまして、薬薬連携コンソーシアム研修会を始め、春日井市民病院で多くの研修会、勉強会を開催をしていただいておりますことを感謝していますというご意見を頂戴しました。

【篠田会長】 以上をもちまして本日の議題は、全て終了いたしました。長時間にわたり会議の運営にご協力いただきありがとうございました。

【橋本課長】 ありがとうございます。以上をもちまして、平成29年度春日井市民病院事業評価委員会を終了させていただきます。長時間、誠にありがとうございました。

上記のとおり平成29年度春日井市民病院事業評価委員会の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び副会長が署名する。

平成29年12月28日

会長 篠田篤志
副会長 大村義一